

平成25年7月6日(土)

石田谷遺跡（第3次）現地説明会資料

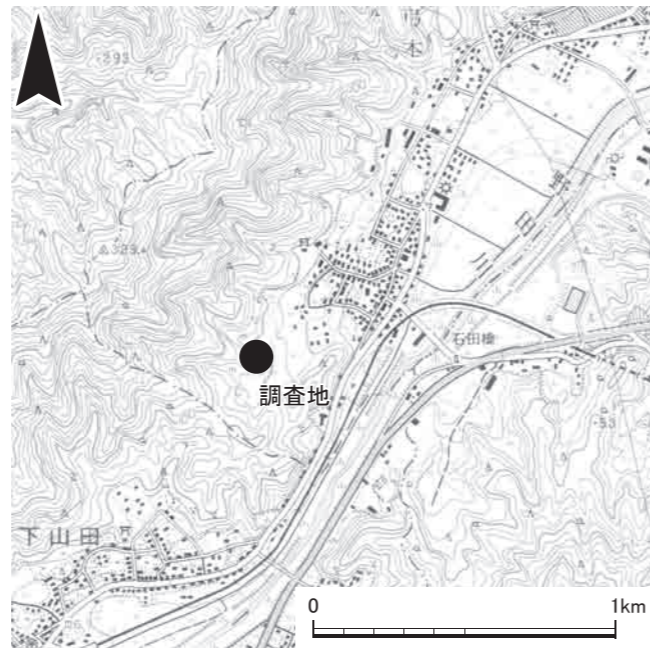
調査場所 与謝郡与謝野町字弓木

調査期間 平成25年4月24日～平成25年7月末日(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

今回の発掘調査は、鳥取豊岡宮津自動車道（野田川大宮道路）新設工事に伴い、平成24年度から実施しています。昨年度は、石田谷遺跡とともに石田城跡と由里古墳群の調査を行いました。今年度は、西側に展開する石田谷遺跡の調査を行っています。石田谷遺跡は、野田川左岸の丘陵裾部に位置し、天橋立が一望できます。



第1図 調査地位置図（国土地理院 1/25,000 宮津）

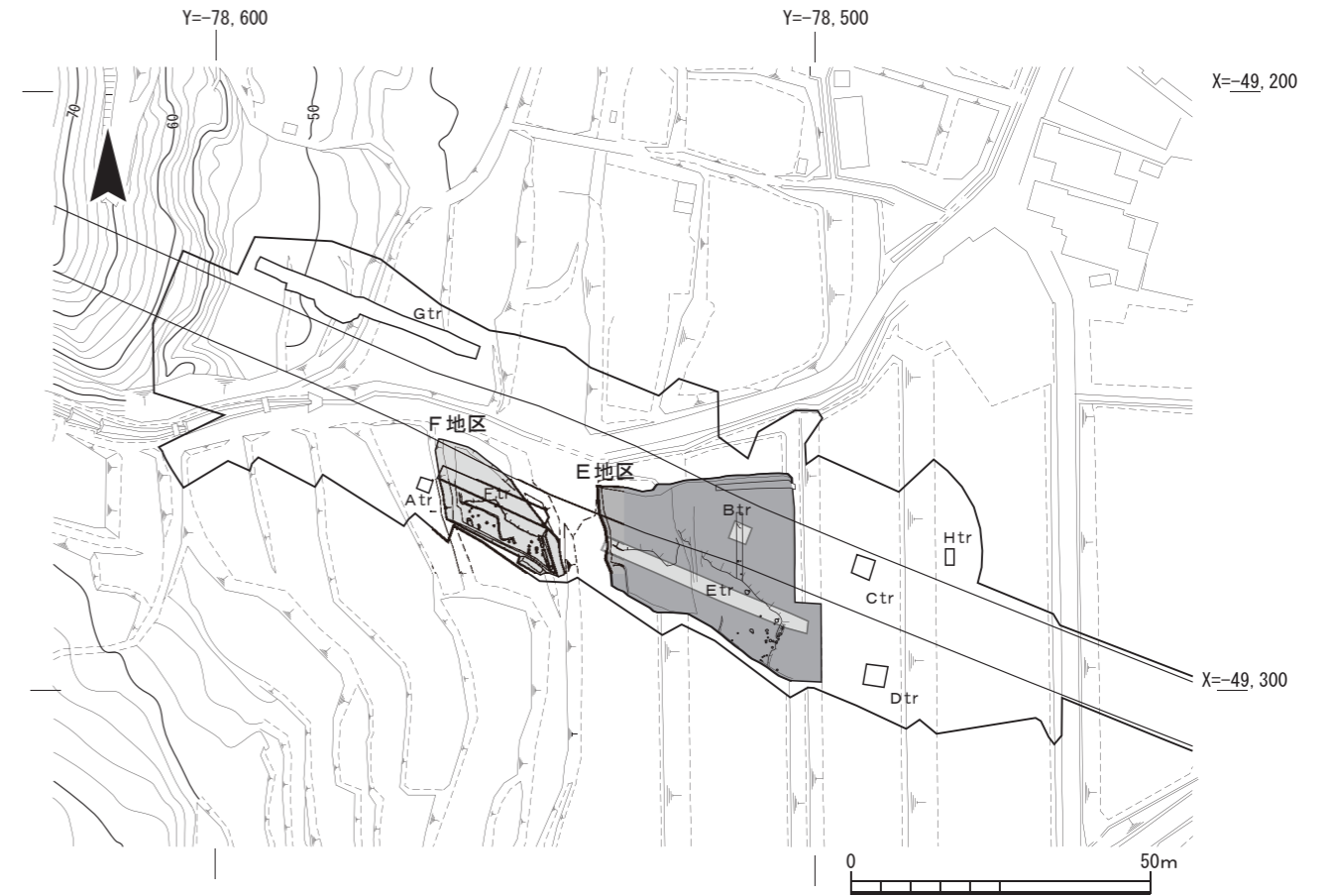
時代前半の土器が多く出土したことから、尾根部にはその時代の建物などの施設が存在していたと考えられます。

竪穴建物SH23 E地区の北斜面で検出しました。平面円形の建物跡です。高所側のみが残っており、半月状での検出となりました。建物の規模は、直径約8m、深さ0.3mを測ります。屋根を支えた柱穴が4つ見つかりました。その配置からもともとは6本の支柱を持つ建物と考えられます。建物の壁沿いには、壁板を立てた幅20cm、深さ10cmの周壁溝しゅうへきこうが巡ります。また住居床面はりは、3cmほど土を入れて整えていました（貼床ゆか）。弥生時代後期～古墳時代初頭の壺・甕の底部が貼床直上から、鉄器（ヤリガンナ）

2. 調査の概要

石田谷遺跡は、平成23年度に与謝野町教育委員会が範囲確認調査を行い、平安時代末から鎌倉時代にかけての土器が出土しました（第1次調査）。平成24年度には、当センターが部分的に調査を行い（第2次調査）、その成果をもとに、対象地を拡張して発掘調査を行っています。今回の調査はE・F地区の2か所で実施しました。

①**E地区** この地区からは、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物1基、奈良時代後半～平安時代前半の柱穴群・溝跡などが見つかりました。これらの遺構は、東方に大きく張り出した尾根の北側斜面で検出しました。尾根筋部は、後世に大きく削られ、顕著な遺構は確認できませんでした。しかし、北側の斜面からは、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器や、奈良時代後半～平安



第2図 調査地配置図

(A～Htr は平成24年度調査、E・F地区は平成25年度調査)

が周壁溝付近から出土しました。

谷地形 E地区北側からは、南西から北東方向に下がる谷地形を検出しました。ここからは、弥生時代後期～古墳時代初頭頃の土器が高所側から投棄された状態で出土しました。

柱穴群 南東部では、多数の柱穴を検出しました。平面形が隅丸方形や円形のものがあります。またこの範囲からは、奈良時代後半～平安時代前期の須恵器・土師器が多量に出土しました。

②**F地区** この地区からは、平安時代末から鎌倉時代の柱穴群・溝跡などが見つかりました。

3. まとめ

石田谷遺跡は、平安時代末～鎌倉時代にか

けての遺跡と考えられていましたが、今回の調査により、弥生時代後期～古墳時代初頭の集落と奈良時代後半～平安時代前半の集落も営まれていたことが新たにわかりました。

弥生時代後期の竪穴建物内からの鉄器（ヤリガンナ）出土は、この遺跡を含めて京都府内で5遺跡しか知られていません。

弥生時代末～古墳時代初頭の遺跡としては、与謝野町おおぶろ山所在の大風呂南墳墓群の東方にある千原遺跡ちはらが知られていますが、遺構の詳しい様子は明らかになっていません。丹後では同じ時期の集落遺跡が68か所ありますが、様相のわかる遺跡は10か所程度しかありません。

今回の竪穴建物跡の発見や土器の出土は、この時期の集落遺跡での生活を知る上で貴重な資料であると言えるでしょう。



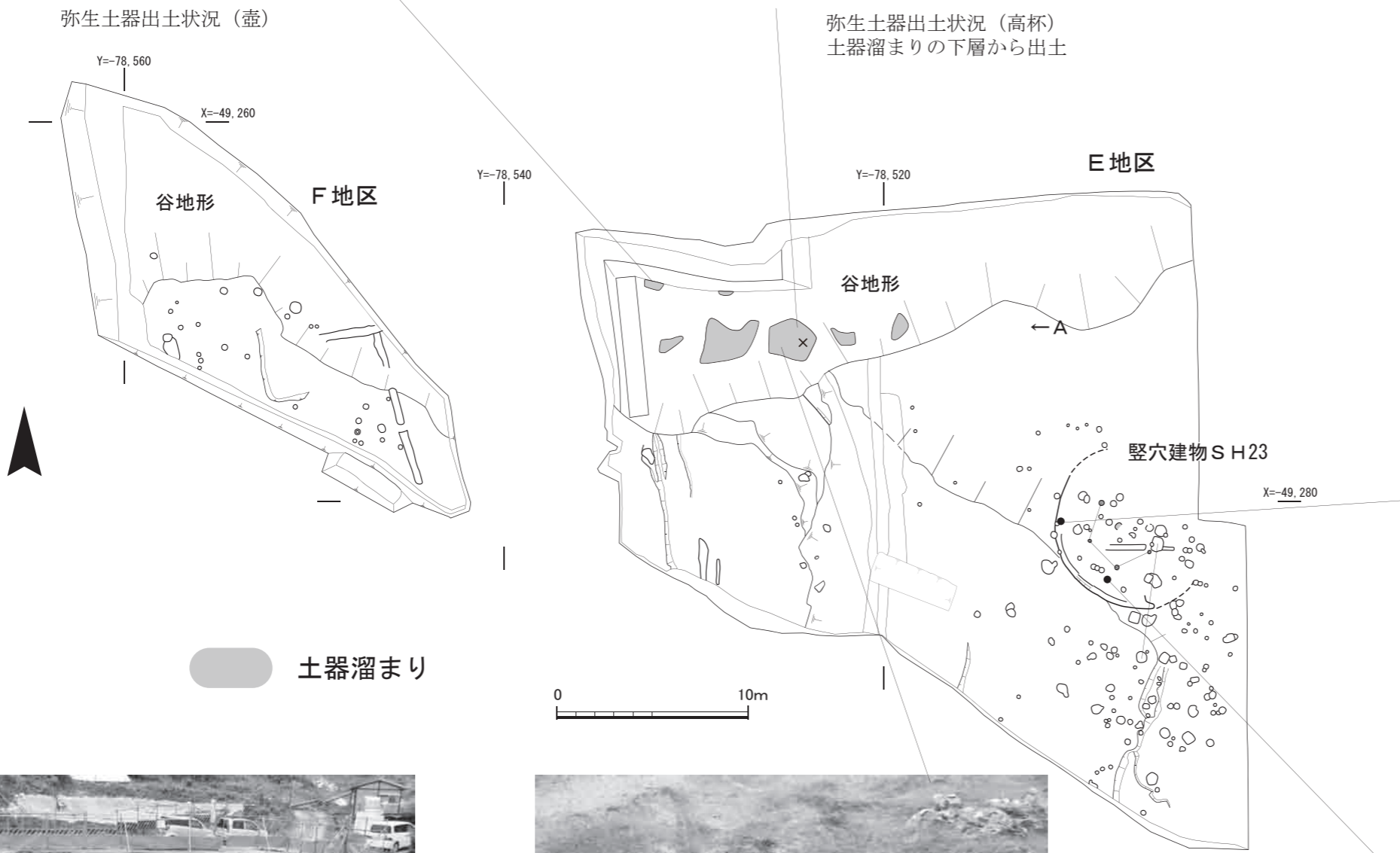
弥生土器出土状況（壺）



弥生土器出土状況（高杯）
土器溜まりの下層から出土



竪穴建物 S H23



鉄器出土状況（竪穴建物内）



E地区谷地形近景（東から）



弥生土器出土状況



弥生土器出土状況（竪穴建物内）